

学習指導案の形式（例） 小学校特別活動

学級活動（１）「学級や学校の生活づくり」

第○学年○組 学級活動（１）指導案

平成○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 議題 ○○○○○○○○（例：「○○をしよう」）

◇事前、本時、事後の一連の活動を指して議題とする。

2 児童の実態と議題について

（１）児童の実態

◇児童の学級生活における実態や、学級活動における実態、これまでの学級での取組などを書く。

◇該当学年の評価規準を踏まえた、話し合い活動における課題や目指す方向などを書く。

（２）議題選定の理由

◇取り上げる議題の内容、今までに取り組んできたこととの関連、その議題を取り上げる意義、議題と児童との関係などを書く。

3 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
例：～集団活動に取り組もうと している。	例：～について考え、判断し、 ～実践している。	例：～について理解している。
◇評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 特別活動】』（平成23年11月 国立教育政策研究所）などを参考にして、適切に設定することが望ましい。		

4 事前の活動

【計画委員会の活動】

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
○月 ○日（○）	◇児童の立場で簡潔に書く。	◇指導者の立場で書く。 準備物や具体的な手だてを書く。	◇事前・本時・事後の活動の中で、どのように評価規準が位置付けられているかが分かるように書く。
○月 ○日（○）			

【学級全員の活動】

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
○月 ○日（○）	◇【計画委員会の活動】【学級全員の活動】を統合して記述することも考えられる。		
○月 ○日（○）			

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

◇児童の立場で書く。

※文末表現の例「～をすることができる」「～について理解することができる」など

(2) 児童の活動計画

◇計画委員の児童が作成した活動計画を指導案に添付する。(低学年など、児童の作成が難しい場合、教師が書くことも考えられる。)

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	教師の指導・支援	学習評価
<p>1</p> <p>2</p> <p>◇具体的に書く。 例えば 「始めの言葉」 「計画委員の自己紹介」 「議題の確認」 「提案理由やめあての確認」 「決まっていることの確認」 「決まったことの発表」 「話合いの振り返り」 「先生の話」 「終わりの言葉」 など、話合いの順序が分かるように書く。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>◇話合いの活動に沿って、指導・支援の意図、重点、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に書く。 ◇話合いの活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「○○する児童に対しては、□□を△△することで◇◇を促す」など、具体的な指導・支援が分かるように書く。 ※文末表現の例 ～雰囲気をつくる。 ～するように助言する。 ～の場を設定する。 ～声かけを行う。 ～を引き出す。 ～意欲を高める。 など</p> <p>◇指導者の立場で書く。</p>	<p>◇評価規準を基に、学級の実態を考慮しながら、「十分満足できる活動の状況」を具体的に書く。 ◇本時は「思考・判断」に重点を置き、事後の活動で「実践」に重点を置いて評価することも考えられる。 ◇評価の観点を書く。 ◇評価方法を書く。</p> <p>○例：～している。 〔評価の観点〕 (評価方法)</p> <p>◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノートの記述 ・ワークシートの記述 など</p>

6 事後の活動

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
○月 ○日(○)	◇児童の立場で簡潔に書く。	◇指導者の立場で書く。 準備物や具体的な手だてを書く。	◇事前・本時・事後の活動の中で、どのように評価規準が位置付けられているかが分かるように書く。
○月 ○日(○)			